



ベゴニア

106 編は **ハレルヤ** で始まり **ハレルヤ** で終わる感謝の賛歌です。主の慈愛は永遠であると感謝しています。それに続いて **主の力強い御業を言葉に表し／主への賛美をことごとく告げうる者があろうか。／いかに幸いなことか、裁きを守り／どのような時にも恵みの業を果たす人は。(2, 3)** と、主の御業を言葉にし、漏れなく賛美し、主の戒めを守り、主の恵みを分け与える等、善行を行う人はいるだろうか、と反語のような表現をしていますが、詩人はそのような自分でありたいと願っているのでしょう。民が **選ばれた民(5)** として、主の心に留まり、迎えられ、報われ、誇れるようにしてほしいと願っています。

ところが、2 連から8連までは、1連の言葉とは真逆な **選ばれた民** の歴史が記録されています。**わたしたちは先祖と同じく罪を犯し／不正を行い、主に逆らった。(6)** と、先祖も我々も罪を犯し、主に逆らってきたと、克明に、その罪、反逆を記録し、それゆえの苦難、恐怖をも記録していきます。

2 連では **海辺で、葦の海のほとりで反抗した(7)** とエジプトで敵の手から贖われ、感謝しても、すぐに **彼らはたちまち御業を忘れ去り／神の計らいを待たず／荒れ野で欲望を燃やし／砂漠で神を試みた。(13)** とあります。それゆえ、民は **やせ衰えさせられた(15)** とあります。

3 連では **彼らは宿営でモーセをねたみ／主の聖なる人アロンをねたんだ(16)** と、リーダーシップを巡って対立します。民数記 16 章にシビ人であるコラとその仲間 **ダタン アビラム(17)** 等が不服従を表明し、主の裁きを受け、**焼き尽く(18)** されたと記されています。

4 連では **彼らはホレブで子牛の像を造り／鑄た像に向かってひれ伏した(19)** と、モーセの留守中不安に駆られた民は偶像礼拝をします。この時 **主は彼らを滅ぼすと言われたが／主に選ばれた人モーセは／破れを担って御前に立ち／彼らを滅ぼそうとする主の怒りをなだめた(23)** と、モーセの執り成しによって救われます。

5 連では **それぞれの天幕でつぶやき／主の御声に聞き従わなかった(25)** と不平不満を述べ、それゆえ子孫は諸国の民に倒され／国々の間に散らされることになった(33) とあります。

6 連では再び **彼らはバアル・ペオルを慕い／死者にささげた供え物を食べた(28)** と偶像礼拝をします。この時にはアロンの子である **ピネハスが立って祈る(30)** ことで救われます。

7 連では **彼らはメリバの水のほとりで主を怒らせた。彼らをかばったモーセは不幸を負った(32)** と、砂漠で水を求めた民のために、モーセが始めて神に逆らい、それが彼の決定的な罪となりました。

8 連では、**彼らは諸国の民を滅ぼさず 諸国の民と混じり合い／その行いに倣い／その偶像に仕え／自分自身を罠に落とした(34)** と、自分の信仰を捨て、異教、その文化、その民を求めたと言います。

9 連は **主は幾度も彼らを助け出そうとされたが／彼らは反抗し、思うままにふるまい／自分たちの罪によって墮落した(43)** という民の罪の「総括」です。罪を全て告白し、悔い改めて、救いを求めているのです。最後に **民はみなアーメンと答えよ(48)** とあります。詩編では **アーメン** (同意を表す言葉) という言葉は詩編ではこれが最後となります。私たちは祈りの後にアーメンと唱和しますが、これは **イスラエルの神、主をたたえよ／世々としえに。民は皆、アーメンと答えよ。主を賛美せよ。(歴上 16:36)** とあるように、**アーメン** の言葉が用いられたのは、掟と裁きを告げる時であり、受け入れるように唱和を命じられました。ですから、106 編の最後に相応しいと言えるでしょう。

『讚美歌 21』では 312「紅海を渡り」 <https://sanbika.blog.ss-blog.jp/2013-04-06> が関連讚美歌ですが、全体の内容とは合致していません。ジュネーブ詩編歌は美しいリコーダーとオルガンの演奏です。 [https://www.youtube.com/watch?v=f\\_q4YNenEhw&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=106](https://www.youtube.com/watch?v=f_q4YNenEhw&list=PL15DF46D76CA72F5E&index=106)